

本日は皆様ご多忙のおり、本校PTA会長 平井雅秋様、静岡市清水区区長大川寿之様はじめ、学園の内外から多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に中等部第71回・高等学校第21回の入学式を挙行できますこと、高い席からではございますが、心から御礼申し上げます。

さて、中等部152名、高等学校402名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご入学心よりお祝い申し上げます。

少子化の折、私立・公立とも入学定員を充足しない学校が多い中、中等部・高校とも定員を大きく上回る、中・高合わせて554名という入学者数を得て、今年度をスタートすることができました。この5年間「変わる！静岡翔洋」を掲げて、本校の新しい教育方針、教育内容を広く訴えてまいりました。この入学者の数は、私達にとって、大変勇気づけられることであり、大きな自信となります。本校を選んで頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、新入生の皆さん。私は皆さんが来校されたオープンキャンパスや学校説明会で必ず言った言葉があります。それは「中学・高校時代にゆとりは必要

ない、青春は忙しいほうがいい。頭にも、身体にも、心にも汗をかく、そんな青春を送ってほしい。」という言葉です。皆さんは覚えているでしょうか。

人生において最も光り輝いている時代それは青春時代です。恐らく恐れというものを知らず、前へ前へと進んで行ける時代であると思います。過去を語るようになったら、それは未来への意欲を失った時です。皆さんのような若者にそんな姿は似合いません。

青春時代は多くの挫折や壁にぶつかるはずですが、それは前進しているからこそ得られる貴重な経験であり、抵抗するものがあつたからと言って進むことをやめてしまうことは、ただ、行動したくない言い訳をしているのにすぎないのです。挫折や障害、自分に抵抗するものがあつても、それを上回る推進力があれば前に進むことができます。その推進力こそが意志の力、本気度です。どれだけ本気になれるのかが学校生活を左右するのです。

さて、3年前本校に足の不自由な生徒が入学してきました。膝から下に装具を付けなければ自立で歩けない生徒でした。スクールバスで仲良くなったその生徒の友人は彼女から「この装具重いんだよね、もっと早く動きたい、軽くなるといい、色ももう少しカラフルなものがあったなら」という言葉を

聞きます。

彼女は考えました。その友人のために電気で動く装具、パワードスーツを開発できたらと。より軽くより快適にそしておしゃれなもの。その友人がもっと軽やかに自由に動くことができるものを作りたい。彼女は進学先を工学部電気学科に決めました。友人のためだけではなく、友人のような障害を持っている人々のために素晴らしいパワードスーツを開発し実用化し、多くの人々の役に立ち社会に貢献できたらと考えたのです。ひとりの友との出会いから、その生徒は勉強する意味、自分の社会での果たす役割、目指すものを見つけたわけです。

勉強は何のためにするのでしょうか。勉強とは私たちが今生きている社会、世の中がどんな社会、どのような世の中なのかを理解するためにするものです。そして、その社会、世の中を理解したうえで、自分はその社会のどの部分を担い、どんな仕事をして社会に貢献できるのか、人の役に立てるのか、そして平和な世の中を作っていけるのかを見つけるためにするものだと思います。ひいてはそれが皆さんの生きがい、生きる意味につながるのです。人生100年時代を迎えています。その100年を生きるための土台作りが今なのです。

そして、もう一つは部活動に汗を流してほしい。先輩や後輩がいて同じ目標、希望に向かって汗を流す。そんな経験は青春時代にしかできないことです。その中で生まれた友情は恐らくとても純粋なもので、生涯続いていく宝物でしょう。公立の中学、高校が部活動や行事をどんどん縮小してっていきます。精神力や忍耐力、困難に打ち勝つ力、仲間を信頼する力、そんな力をどこで養うのでしょうか。今後、公教育がさらに衰退していくと思わざるを得ません。時代はまさに私学にありと私は思っています。

新入生の皆さん中等部生は 2000 日の高校生は 1000 日の汗かく青春、夢中って無敵、そんな青春を送ってほしいと思います。

満開の桜の下、碧く光る太平洋と秀麗富士がみなさんの門出をお祝いしています。素晴らしい学校生活となることを祈念いたしまして校長の「告辞」といたします。入学おめでとう。